

日時

土

2014年3月8日

学習方略研究における 理論と実践の新たな展開

自立した学習者であるためには、効果的な学習方法（学習方略）を身につけていることが不可欠です。近年の学習方略研究では、心理学的理論を踏まえて、学校現場においてより実践的な研究も行われるようになってきています。本シンポジウムでは、最新の研究知見について、理論と実践の両面から紹介します。なお、本シンポジウムは、認知カウンセリング研究会（東京大学市川伸一教授主催）と、科学研究費補助金基盤研究B「学習方略の自発的利用促進メカニズムの解明と学校教育への展開」（早稲田大学 Dr.Emmanuel Manalo 代表）による共催となります。

プログラム

9:30 - 12:30 最新の心理学的研究知見の紹介

実践的な問題意識を踏まえて、理論的な検討を行っている最新の研究を7つ紹介します。心理学的手法を用いて行われた研究ですが、学校現場での指導にどのような示唆が得られるのかを中心に、学校現場の先生にも分かりやすくご紹介する予定です。図表活用、予習、自己質問などといった様々な方略を対象に、効果的な指導法の開発や促進メカニズムの検討を行った研究を取り上げます。

— 12:30-13:50 休憩 —

13:50 - 16:00 理論とデータを踏まえた実践的研究の紹介

理論を踏まえて行われた2つの教育実践について、データを踏まえながらご紹介します。実践に先立ち、冒頭で理論を実践に生かす方法について取り上げます。続いて、効果的な覚え方や振り返り方を促す授業（学習法講座）と、一斉授業と家庭学習を通じてメタ認知を鍛える小学校実践を取り上げ、データを示しながらその具体的内容や効果について紹介します。心理学的研究の1つとして国内外に発信しようとしている内容です。

16:00 - 17:30 総合討論（終了後、1時間程度の茶話会を予定）

会場

東京大学本郷キャンパス
赤門総合研究棟 200 番教室

方申
法込

下記ウェブサイト申込フォームにて、お名前、ご所属、ご連絡先（メールアドレス）、及び終了後1時間ほど予定している無料の茶話会への参加の有無を記入のうえ、お申込下さい。
フォームから登録できない場合には、learning@p.u-tokyo.ac.jp（植阪）までご連絡ください。
申し込みフォーム：<http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~c-kodoka/symp140308.html>（右QRコードと同一）
※会場の関係から、70名を超えた場合にはお断りをする場合がございます。特に連絡がない場合には、申し込みをお受けしておりますので、そのまま会場にお越しください。

